

2017 年 9 月 26 日
JUSTICE 運営委員会

JUSTICE における Open Access に係る活動状況報告

1. 「第 13 回ベルリン・オープンアクセス会議」への出席
 - ・ 2017 年 3 月 21 日～22 日にマックスプランク研究所（ドイツ・ベルリン）で開催された標記会議（13th Berlin Open Access Conference : Berlin 13）に、JUSTICE から市古委員（2017 年度 JUSTICE 運営委員会委員長）を派遣した。
 - ・ 詳細は、別紙 1 の参加報告を参照のこと。
 - ・ なお、Berlin 13 では、NII 安達副所長が Advisory Board メンバーであった。

2. 「OA2020 対応検討チーム」の設置
 - ・ JUSTICE 運営委員会の下に、標記チームを設置した。（別紙 2 参照）
 - ・ 今後、「論文公表実態調査」の継続や、海外の状況の情報収集などを行った上で、それらの情報を基に、日本における方向性について、JUSTICE として検討していく。

2017年7月14日
JUSTICE 運営委員会承認

OA2020 対応検討チームの活動体制について

2017年度第1回 JUSTICE 運営委員会（2017年5月31日開催）において設置が承認された「OA2020 対応検討チーム」について、次のような体制で活動を開始する。

主 査	市古 みどり	慶應義塾大学	OA2020 NCP (National Contact Points)
	奥村 小百合	筑波大学	調査作業部会担当 運営委員会委員 (論文公表実態調査 主担当)
	細川 聖二	東京大学	交渉作業部会 主査
	山中 節子	京都大学	調査作業部会 副主査 (論文公表実態調査 主担当)
	笹淵 洋子	早稲田大学	運営委員会委員 旧・論文公表実態調査チーム 委員
	中山 知士	東京大学	調査作業部会委員 (論文公表実態調査 主担当)
	砂押 久雄	東京工業大学	調査作業部会委員 (論文公表実態調査 主担当)
	長坂 和茂	京都大学	調査作業部会委員 (論文公表実態調査 主担当)
	森嶋 桃子	慶應義塾大学	作業部会委員 旧・論文公表実態調査チーム 委員
	矢野 恵子	明治大学	作業部会協力員 旧・論文公表実態調査チーム担当 事務局員
	尾城 孝一	国立情報学研究所	作業部会協力員 旧・論文公表実態調査チーム 主査
	吉田 幸苗	国立情報学研究所	SPARC Japan 事務局 旧・論文公表実態調査チーム 委員
顧 問	安達 淳	国立情報学研究所	Berlin 13 Advisory Board
事務局	山形 知実	JUSTICE 事務局	事務局員

2017年5月31日
JUSTICE 運営委員会承認

オープンアクセス対応検討の活動体制について

1. 目的

JUSTICE におけるオープンアクセス（OA）に関する現在の活動状況は、次のとおりである。

- ・2015年10月以降，論文公表実態調査を行い，国内研究者が公表する論文のゴールド OA 率や APC 支払推定額の把握に努めている。
- ・2016年8月，学術雑誌のオープンアクセス出版への転換を目指す国際的なイニシアティブ Open Access 2020（OA2020）（ドイツ Max Planck Digital Library 主導）の関心表明（EoI）に，運営委員会委員長名で署名を行った。
- ・2017年3月，OA2020 について協議を行う国際会議 13th Berlin Open Access Conference（Berlin 13）へ，JUSTICE から市古委員（当時）が出席し，JUSTICE がこの課題に係る日本の National Contact Points となった。

これらを背景として，今後，論文公表実態調査のデータを基にして，OA2020 モデルについて検討を行っていく必要がある。

そこで，日本におけるゴールド OA への対応を検討するための体制を構築する。

2. 活動体制

JUSTICE 運営委員会の下に「OA2020 対応検討チーム」（仮称）を設置する。

※チームの構成員は，運営委員会および作業部会委員を中心としつつ，必要に応じて協力員としての参画の要請を行う。

3. 当面の活動内容

国内外の OA（特にゴールド OA）の動向に関する情報収集・情報提供を行う。

調査作業部会で実施される論文公表実態調査のデータを把握し，Open Access 2020 モデルの実現可能性について検討を行う。

4. 設置期間

2017年6月～2018年3月